



演技が一段落し、座って指示を聴く。演出家に向けられたまなざしは真剣そのもの



演出家の指示も徐々に細くなる。入念に台本をチェック



試作したばかりの狐の衣装を着け、動きを入れながら力の入ったけいこ



大人と子どもの合同げいこ。子どもたちの演技も堂に入ったもの

全員で輪になり初めての台本の通し読み。1時間30分ほどかった



参加者同士でせりふの確認をする姿も

子ども代表で結団のことは述べる南部小6年の加藤小枝さん



子どもたちも一人ずつ自己紹介。元気な声に笑顔の輪が広がる



親子で楽しくわらじ作り。形になるにつれて、あちこちで生き生きした笑顔が



年齢差はあっても同じ目的に向かって進む仲間同士。休憩時には話がはずむ



楽譜を見ながら大きな声で「♪ぼくらが安城ヶ原をー 駆けていたころー」



歌を歌う前にはまず発声練習。「あくびをするときの声を覚えておいて。この声で歌うと、遠くまで声が届くんだよ」

舞台で履くわらじを作ろうと、たくさん親子が参加。わらの代わりに色の付いたひもを材料にして、慣れない手つきで一糸懸念編み上げる。本番当日には、オリジナルティーあふれる色鮮やかなわらじが舞台狭しと駆け回る。

衣装も自分たちでわらじ作り（6月29日）

緊張した雰囲気の中にも笑顔が

初げいこから1か月。台本を持ちながらの動きを付けた立ちげいこが始まった。芝居の形が見えてくるにつれ、演技にも力が入る。それに伴い、演出家の指示もしだいに厳しいものに。「力が入ってきて相手の目を見て芝居をしたくなるのはわかります。でも、客席はこっちですから」と客席に見立てた方向を指差す。演技者の熱気と演出家の冷静な目がすばらしい芝居を作っていく。

立ちげいこ（9月22日）

けいこ場は熱気あふれる

は緊張ぎみだったものの、慣れるに従い、熱を帯びてくる。けいこ場の雰囲気徐々に変わっていく。子どもの初げいこは5月26日。この日は芝居の最後に合唱する歌の練習。子どもたちは、結団式で配られた楽譜で個人練習してきたようだ。1時間ほどの練習で難しいリズムをこなすように。自然に一つにまとまっていくメロディーに気持ちよさそうに身をゆだねる。

午後6時に始まった大人の初げいこ。参加者が集まり、第一声は「おはようございます」。演劇・芸能の世界特有のあいさつに、戸惑い気味の顔もちらほら。演出を担当する夏目さんが冒頭にあいさつ。「こんなに多くの人にご参加をいただけたとは思っていませんでした。さっそく脚本を見直して、応募者全員に舞台にあがってもらおうようにしました」という話を、集まった参加者は、目を輝かせて聞く。その後、全体の話の流れをつかむため、台本を通し読み。最初

初げいこ（5月18日）

夜なのにおはようございます。

「おー！」。

メンバーの初顔合わせとなる結団式。実行委員長のあいさつや参加者代表による結団のことはなどのあと、出席者全員が一人ずつ自己紹介。式の締めくくりに全員で元気よく、「8月25日は市民会館サンプラホールを満員にするぞー」。

結団式（5月12日）

緊張した雰囲気の中にも笑顔が

